

サニックスワールドラグビーユース交流大会 2023
予選会

大会開催に向けた感染拡大防止ガイドライン

サニックスワールドラグビーユース交流大会
大会事務局

目次

① 出場チーム対応	… 2, 3
② 大会準備対応	… 4, 5
③ 大会運営スタッフ対応	… 6, 7, 8
④ メディア対応	… 9
⑤ 感染ならびにその疑いがある場合の対応	… 10, 11, 12
⑥ 有観客における試合当日の観客対応	… 13
⑦ 大会中止の検討基準	… 14
別紙資料について	… 14

①出場チーム対応

- 大会に参加する選手およびスタッフは既定の用紙に登録をし、それ以外の者はチームとの同行を認めない。

チームスタッフの内、「感染予防対策責任者」を1名指名する。

- 競技場への入場はマスクの着用を義務付ける。
- 受付で検温とアルコール消毒を必ず行う。ウォーターボトル、タオル、ヘッドキャップ等の個人の備品は必ず区別し、栄養補給サプリメント等も含め共用、使いまわしをしない。
- こまめな手洗いをを行うよう選手に注意喚起する。
- 他の参加者、主催者スタッフ等とのソーシャルディスタンス(できるだけ2m、最低1m)を確保する。
- 大きな声で会話、応援等を極力しないこと。
- 会場内のトイレの使用 出入口にアルコールを設置、洗面所にはハンドソープを設置する。
手洗いに関しては30秒以上行う事を掲示し、周知させる。
- 控え選手、スタッフについてはマスクを必ず着用し、選手席(ベンチ)で密にならないよう待機する。試合時にベンチに入れる人数は40名以内とする。

40名の内訳:登録選手25名

他15名(チームスタッフ、ウォーターパーソン3名、ボールパーソン2名を含む)

- 待機場所の滞在時間を減らすため、指定された入場時間に従う。必要以上の会場早着は避ける。
- 待機場所でもソーシャルディスタンス(2m、最低1m)を確保する。
- ソーシャルディスタンスを確保しない円陣等は避ける。
- ベンチで待機するリザーブ選手、チームスタッフ、及びテクニカルゾーンやピッチサイドで待機するSA、ウォーターパーソンは引き続きマスクを着用する。但し、ウォームアップ時や交代直後の選手など、健康状態の維持に支障が出る場合を除く。
- タオルやドリンクボトル、アイシング用の氷の共用はしない。
- ピッチ上に唾や痰をはくことは行わない。
- ウォーターパーソン、SA等のビブスは期間中主催者より貸与するので、各チーム管理する。

大会最終日、自チームの最終試合が終了した時に返却すること。

【宿舎・移動】

- 宿舎での生活で、自チーム以外の宿舎への立ち入りを禁止する。

チーム同士の交流もできるだけ避ける。

同じ宿舎に他チームが宿泊している場合は、なるべく接触しないように行動し、手指消毒の励行を徹底する。

- 食事は決められた時間で行い、必要以上の会話は避ける。
- 浴場でも密を避け、時間をずらすなどの対応をする。
- バスで移動する際は、可能な限り席の間隔をあけて座り、車内の換気に留意する。

(1時間に3回の換気、できれば全開でなくても常時開窓が推奨される)

- 公共交通機関で移動する場合は、各個々人が政府の推奨する感染予防策を徹底する。

【コロナ感染症に対する管理体制(試合日以外も含む)】

- 「感染予防対策責任者」を明確にし、チームのガイドライン遵守に責任を持つとともに、大会期間中においては大会の感染予防責任者と連携を図り、感染症予防にあたるものとする。

- 体調管理: 朝晩必ず検温を行い、体調チェックを行う(所定の健康チェックシートを使用する)。

- 代表者は必ず関係者全員の連絡先を管理する。

- チーム及び関係者には、大会 10 日前から、所定の「個人健康チェックシート」により、以下の事項の確認を行う。

1. 平熱を超える発熱
2. 咳、のどの痛みなど風邪の症状
3. だるさ(倦怠感)、息苦しさ(呼吸困難)
4. 嗅覚や味覚の異常
5. 体が重く感じる、疲れやすい等
6. 新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
7. 同居家族や身近な知人に感染が疑われる者の有無
8. 政府から入国制限、入国後の観察待機期間を必要とされている国、地域への渡航後の待機期間中、又は当該在住者の待機期間中での濃厚接触がある場合

②大会準備対応

【試合会場における感染防止対策の基本方針】

■ 感染予防対策責任者

会場本部に感染予防対策責任者を置き、チームの感染予防対策責任者と連携を図るとともに、感染予防対策の徹底と観察・注意に従事する。

■ 受付設定

各関係者別に受付を設定し、各受付で検温を行う。可能な限り来賓の入場は想定しない。

■ 会場の消毒

試合開催日に使用する諸室やスペース、複数の利用者が触れると考えられる高頻度接触部位(ドアノブ、ロッカーの取手、テーブル、イス等)は、使用前に清掃、消毒を実施する。

消毒は 0.05%次亜塩素酸ナトリウムあるいは 70%以上のアルコールを用いて行う。

■ 簡易消毒

各諸室に手指消毒液を設置し、感染リスクを下げるための対策を行う。

■ 競技エリアのレイアウト

選手ベンチ等、サイドラインの待機スペースにおいて、可能な限りソーシャルディスタンスを確保できるよう、物理的に可能な限りレイアウトを工夫する。

■ スタッフケータリング

運営スタッフの食事を手配する場合は、個別の弁当等を手配することとし、スナック類も含めて複数名での共有は避ける。食事の前には必ず手洗いをを行い、廃棄物処理は適切に行う。

■ 手洗い場及びトイレは、手を拭く為のペーパータオルを用意するか、もしくは個人のタオルを持参させる。

■ 手洗いを 30 秒以上行うよう掲示、もしくは周知する。

■ 石鹼(ハンドソープ)を用意する。

【大会運営日程】

■ 代表者会議:各チーム1名の代表者で行う(選手は出席しない)。

■ 開会式:実施しない。表彰式については、表彰対象チームのみ参加して実施する。

【諸室の感染対策】

- 諸室内でも必ずマスクを着用のうえ、ソーシャルディスタンス(2m、最低1m)を確保するよう周知する。

■ 諸室レイアウト

各諸室においてソーシャルディスタンスを保つことができるよう、内部レイアウトや追加のスペース割り当てについて検討し、特にチームやレフリーのスペースについては優先的に配慮し、セキュリティやゾーニングの観点を加味しながら追加の部屋についても可能な限り対応する。

■ 各諸室の換気対策

金銭管理や更衣など特段のセキュリティ対策が必要でない限りは、各諸室の窓を開け、ドアストッパーを使用しドアを開放する。

■ 選手の更衣

できるだけ自室にて行ってからグラウンドに移動すること。

【試合の安全対策】

- ソーシャルディスタンスを確保しない円陣等は避ける。

- ベンチで待機するリザーブ選手、チームスタッフ、及びテクニカルゾーンやピッチサイドで待機するSA、ウォーターパーソンは引き続きマスクを着用する。但し、ウォームアップ時や交代直後の選手など、健康状態の維持に支障が出る場合を除く。

- タオルやドリンクボトル、アイシング用の氷の共用はしない。

- ピッチ上に唾や痰をはくことは極力行わない。

- 試合球: 2度以上使用する場合は必ず70%以上のアルコールを用いて消毒を行う。

【その他】

■ 廃棄物処理

飛沫感染のリスクを低減させるため、マスク等、個人で持参したものについては可能な限り持ち帰る。

廃棄物を移動させる際は、ゴミ袋等の口を縛り、ゴミが飛散しないよう留意する。

③大会運営スタッフ対応

【大会役員・競技役員・補助役員に求められる対応】

■ 試合会場に向けた出発前～試合会場到着

- 各自健康状態を確認し、所定の「大会関係者 健康チェックシート」を作成する。
- 移動時はマスクを着用する。
- 同乗車両で移動する際は、可能な限り席の間隔をあけて座り、車内の換気に留意する。
- 公共交通機関で移動する場合は、各個々人が政府の推奨する感染予防策を徹底する。
- 更衣室の滞在時間を減らすため、必要以上の会場早着は避ける。

■ 試合会場到着後～試合開始

- 所定の「大会関係者 健康チェックシート」を受付へ提出する。
- 更衣室内でもソーシャルディスタンス(2m、最低1m)を物理的に可能な限り確保できるよう意識をする。
- 試合会場では必ずマスクを着用する。
- 食事を取る際は必要以上の会話をせず、残飯等の廃棄物は運営管理者の指示の下、適切に処理すること。
- 試合球が消毒されていることを確認する。消毒がされていない場合には、試合で使用される前に全球を消毒。
- 試合開始時の密集を避けるため、チーム入場前にピッチサイドでスタンバイする。

■ 試合中

- 引き続きマスクを着用する。
- 試合球を拭くためのタオルは選手へ渡さない。
- レフリーの給水をサポートする場合は、給水ボトル等を該当者以外に渡すことを避け、給水口に直接触れないようにする。
- 自身のタオル、ドリンクボトルを他者と共有しない。
- ハーフタイムに試合球を再度消毒しタオルを交換する。自身の手指を洗う、もしくは消毒する。

■ 試合終了後

- 試合球を消毒し、大会役員へ返却する。
- 使用したタオルは確実に袋に入れ、口を縛って大会役員へ返却する。

新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン

- 自身の手指を洗う、もしくは消毒する。
- 更衣室退出時は必ずマスクを着用する。

【試合当日、すべての人に求められる対応】

- 以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせる（参加当日に確認を行う。）。
 - 体調がよくない場合（例：発熱・咳・咽頭痛・味覚や嗅覚異常などの症状がある場合）
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - 政府から入国制限、入国後の観察待機期間を必要とされている国、地域等への渡航後の待機期間中又は当該在住者の待機期間中での濃厚接触がある場合
- マスクを持参し着用する。
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。握手、抱擁などは行わない。
- 競技関係者、スタッフ等とのソーシャルディスタンス（できるだけ2m、最低1m）を確保する。
- 無線機の共有はしない。やむを得ず代替機を使用する場合は十分な消毒確認をする。
- 大きな声で会話、応援等を極力しないこと。
- 開催会場及び主催者、管理者が定めた措置を順守し、従うこと。
- 試合開催終了後48時間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、大会実行委員会に対して速やかに
濃厚接触者の有無等とともに報告すること。

【運営協カスタッフに求められる対応】

- 開催日前準備
 - 各社において全スタッフの特定の為、個人の氏名、連絡先を保持し、緊急時に主催者と共有ができる。連絡先を把握する。両者間の個人情報の共有は、新型コロナウイルス感染対策において必要な場合に限られるが、情報集約時に各個人の承諾を得ておくこと。
 - 来場者のリストを提出し、試合当日に会場に訪れるスタッフを共有する。
- 試合会場に向けた出発前～試合会場到着
 - 全スタッフの健康状態を確認し、問題ないことを確認する。
 - 所定の「大会関係者 健康チェックシート」を作成する。
 - 移動時はマスクを着用する。
 - 同乗車両で移動する際は、可能な限り席の間隔をあけて座り、車内の換気に留意する。

新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン

○公共交通機関で移動する場合は、各個人が政府の推奨する感染予防策を徹底する

○各執務室の滞在時間を減らすため、必要以上の会場早着は避ける。

■ 試合会場到着後～試合終了

○職務を開始する前に全スタッフの健康状態に問題がないことを確認する。

○所定の「大会関係者 健康チェックシート」を受付に提出する。

○執務室内でもソーシャルディスタンス(2m。最低 1m)を物理的に可能な限り確保できるよう意識をする。

○試合会場では必ずマスクを着用する。

○使用する備品や機材が消毒されていることを確認する。消毒がされていない場合には、使用する前に消毒する。

○業務を行うエリア外には立ち入らない。

○ピッチレベルでの業務を行う場合、試合開始時の密集を避けるため、チーム入場前にピッチサイドでスタンバイする。試合中も選手や競技スタッフとは極力距離をあける。

■ 試合終了後

○使用した備品や機材を返却する際は、返却前に消毒し、管理者へ返却する。

○帰宅する際も、出発時と同様の感染防止対策を実施する。

【その他】

■ 役員については全員の連絡先を管理し、大会時及び大会 10 日前からの毎朝の検温と体調チェックを行う。

■ 役員、ドクター、SA、補助役員については必ずマスク着用を義務付ける。

■ 体調不良者が出た際のマニュアルの作成・搬送先の確認(役員・選手)医務委員会と協議。

■ 大会期間中の昼食については、チーム関係者ならびに大会役員は、密にならないような場所とする。

④メディア対応

【試合当日のメディア対応】

■ 取材メディア受け入れ条件

原則として試合当日に試合会場での取材活動を受け入れる方針とし、但し感染防止対策としての以下の条件に承諾し、実行委員会へ取材申請を提出、受理されることが条件となる。試合会場のメディア用のスペースの都合により、メディア来場者全体の人数制限を設ける場合もある。

- 人数に制限を掛ける必要がある場合には、各会場における特性を鑑み、会場ごとに各媒体当たりの人数制限を掛ける。例)各媒体ライター1名、フォトグラファー1名、ENG1クルーまで等
- 以下の場合には来場を見合わせる

(1)体調がよくない場合

(例:発熱・咳・咽頭痛・味覚や嗅覚異常などの症状がある場合)

(2)同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合

(3)政府から入国制限、入国後の観察待機期間を必要とされている国、地域等への渡航後の待機期間中又は

当該在住者の待機期間中に濃厚接触がある場合

- マスクを持参し着用する。
- 所定の「大会関係者 健康チェックシート」を作成し、来場時に報道受付に提出する。開催会場及び主催者が定めた措置を順守し、従う。
- 受付後は必ず、ADカードを見える位置に着用する。

【選手への取材方法】

■ 取材対応はメディア関係者との接触、または感染リスクがない手段にて実施する。

- 必ず指定の場所で行い、間隔を空けて行う。
- 移動中等の囲み取材は厳禁とする。
- 試合前、試合中の選手、顧問への取材は認めない。
- 試合後は大会で定められたエリアのみで取材を行う。
- スチールカメラはインゴール裏のみ認める。

⑤感染ならびにその疑いがある場合の対応

I チーム、大会関係者に感染もしくは感染の疑いが判明した場合の対応

- 1 感染が判明または、感染が疑われる選手・関係者が発生した場合、直ちに主催者へ連絡する。
- 2 陽性となった者は、医師の許可が下りるまで(隔離期間が終えるまで)、大会に参加できない。
- 3 陽性疑いとなった者は医師の診断が下り、陰性が確認されない限り、大会に参加できない。
- 4 濃厚接触者となった者は、陽性者との最終接触日を0日目として5日間の隔離期間中は大会に参加できない。ただし、2日目及び3日目に抗原定性検査を行い陰性を確認した場合、3日目からチームに合流し、活動することができる。
ただし、病院での判定を行わない場合は各チームが医療用の抗原定性検査キットを準備すること。
- 5 濃厚接触疑いとなった者は、下記の、「II 大会出場可否の判断について」に従い大会出場可否を決定する。

II 大会出場可否の判断について

1 陽性者及び濃厚接触者について保健所または医師の判断がなされている場合

- (1)陽性者(疑い含む)の隔離期間が大会期間と重なっていても、他の選手に濃厚接触もしくはその疑いがないとの判断が保健所もしくは医師の診断によって明確に示されていれば、その陽性者を除くチーム編成で大会参加は可能である。
- (2)チーム内に濃厚接触者、もしくはその疑いのある選手がいる場合において、その隔離期間が大会期間と重なっていても、濃厚接触者ではないと保健所もしくは医師の診断によって明確に示されている選手でチーム編成ができていれば、大会参加は可能である。

2 陽性者(疑いを含む)及び濃厚接触者(疑いを含む)について保健所または医師の判断が間に合わない、もしくはなされない場合

(1)陽性疑いの判断基準

以下のいずれかに該当する者は大会運営上、陽性疑いとする

①37.5℃以上の発熱、またはのどの痛み、咳などの症状が顕著である者

②大会前10日間以内に発熱等の症状があったにもかかわらず、医療機関を受診していない者

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査の実施を推奨する。

・簡易検査の結果が陰性判定であっても、陽性疑いとして扱う。対応は、上記 I 3 及び II 1(1)のとおり。

・陽性であった場合は、他の選手の濃厚接触(疑い含む)の判定を行う。

(2)濃厚接触の判定基準

以下のいずれかに該当する者は濃厚接触者とする

①陽性者(陽性疑い含む)の発症 48 時間前以降に、マスクの着用なく、1m以内で15分以上接触した者

②陽性者(陽性疑い含む)の発症 48 時間前以降に、合宿やホテルで同室であった者

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査の実施を推奨する。

・簡易検査の結果が陰性判定であっても、濃厚接触者として扱う。したがって、判定結果に関わらず陽性者との最終接触日を0日目として5日間の隔離期間を要する。ただし、2日目、3日目に抗原定性検査を行い陰性を確認した場合、3日目からチームに合流し、活動することができる。対応は、上記 I 4 及び 上記 II 1(2)のとおり。

・陽性であった場合は、他の選手の濃厚接触(疑い含む)の判定を行う。

(3) 濃厚接触疑いの判定基準

以下のいずれか一つに該当する者は濃厚接触疑いとする。

- ①陽性者(陽性疑い含む)の発症 48 時間前以降に一緒に練習・試合をした自チームの選手
- ②陽性者(陽性疑い含む)が複数出たチームの全選手

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査を推奨する。

- ・簡易検査の結果が陰性判定であれば、原則として濃厚接触者疑いを解除し、チームへの合流及び活動を可とする。チームの大会参加の可否は、上記Ⅱ 1 (2) のとおり。
- ・陽性であった場合は、他の選手の濃厚接触(疑い含む)の判定を行う。

3 出場可否の最終判断

(1)感染が判明した選手・関係者または、感染が疑われる選手・関係者が発生した場合は、直ちに主催者に報告を行い、上記の参加条件に適合するか否かの確認を行う。

(2)最終的な試合参加の可否については、本大会感染症アドバイザーの助言・見解を得て、主催者が判断する。

Ⅲ 開催地において試合前に発熱があった場合の対応

1 開催地入り後、試合前日までに37.5度以上の発熱や咳、のどの痛みなど風邪の症状があり、医師の診断が間に合わない場合

大会運営上、当該選手を陽性疑いとみなす

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査の実施を推奨する。

- ・簡易検査の結果が陰性判定であっても、当該選手は陽性疑いとして扱い、参加不可とする。他の選手の濃厚接触の追跡は行わないが、最終的な試合参加の可否については、本大会感染症アドバイザーの助言・見解を得て、主催者が判断する。
- ・陽性判定であった場合は、他の部員に対してⅡ 2 (2) (3) の対応を行う。

2 試合当日の朝に37.5度以上の発熱や咳、のどの痛みなど風邪の症状があった場合

大会運営上、当該選手を陽性疑いとみなす

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査の実施を推奨する。

- ・簡易検査の結果が陰性判定であっても、当該選手を陽性疑いとして扱い、参加不可とする。他の選手の濃厚接触の追跡は行わないが、最終的な試合参加の可否については、本大会感染症アドバイザーの助言・見解を得て、主催者が判断する。
- ・陽性判定であった場合は、時間の許す限り、他の部員に対してⅡ 2 (2) (3) の対応を行う。

3 試合当日、受付での検温にて37.5度以上の発熱が認められた場合

チームの感染症対策責任者立ち合いのもと大会本部にてあらためて腋窩測定をおこない、37.5度を超えた場合は、大会運営上、当該選手を陽性疑いとみなす。

※これらの者は、その後の対応のために、その場で抗原定性キットにて簡易検査の実施を推奨する。

- ・簡易検査の結果が陰性判定であっても、当該選手を陽性疑いとして扱い、参加不可とする。他の選手の濃厚接触の追跡は行わないが、最終的な試合参加の可否については、本大会感染症アドバイザーの助言・見解を得て、主催者が判断する。
- ・陽性判定であった場合は、時間の許す限り、他の部員に対してⅡ 2 (2) (3) の対応を行う。

IV 試合後に陽性者(疑いを含む)が判明した場合の対戦相手チームとしての対応

対戦相手については、濃厚接触者(疑いを含む)と判断しない。

後に37.5度以上の発熱や咳、のどの痛みなど風邪の症状があった場合は、Ⅲの対応を行う。

※すべての項目において、開催県自治体の保健所からの判断が出た場合は、その判断を最優先する。

※大会終了後、3日間は特に健康観察を慎重に行い、感染が疑われる症状が出た段階で、主催者に一報を入れる。

⑥試合当日の観客対応

【観客対応】

■ 入場口の待機列管理

- ・開場前の入場待機を可能な限り控えるように告知する。
- ・会場では前後のお客様とのソーシャルディスタンスを保ち、待機するよう呼びかける。

■ 入場口対応

- ・入場口のスタッフは非接触型体温計にて体温を計測し、問題がないことを確認する。37.5℃以上の発熱がある場合は入場を控えていただくようお願いする。
- ・入場改札後、設置した手指消毒液にて消毒を行い、場内へ入場いただく。

■ 場内トイレ

- ・トイレの手洗いスペースに手指洗剤や石鹸、手指消毒液を設置する。待機列発生時はソーシャルディスタンスを保つよう呼びかける。

■ スタンド内

- ・大声での声援はせず、拍手での応援を基本とする。

⑥大会中止の検討基準

■12月27日(月)以降、下記の1項目でも当てはまる事態が生じた場合、主催者で検討し開催(継続)可否の決定を行う。

①緊急事態宣言が発令された場合

- ・不要不急の外出自粛が全国的に要請された場合
- ・都道府県をまたぐ移動の自粛が全国的に要請された場合
- ・全国的に店舗営業において自粛が要請された場合
- ・全国的に学校において部活動が認められない場合

②開催地である福岡県においてイベントの開催が認められない場合

③開催地である福岡県において、新型コロナウイルス感染症に関する診療体制が整わない場合。
また、緊急時の地域医療機関の受け入れ態勢が整わない場合

④新型コロナウイルス感染に関連して不測の事態が生じた場合

⑤その他、大会運営上に支障をきたす場合。

【別紙資料】

- ①個人健康チェックシート(大会前10日間) ※個人で使用し保管、チーム代表者が確認
- ②チーム健康チェックシート ※期間中、毎日提出
- ③大会関係者、メディア 健康チェックシート ※来場時提出
- ④コロナ対応代表者連絡先調査表